

外傷性肩関節脱臼



肩関節脱臼とは・・・？

肩関節は人体の関節の中で最も運動範囲が広い関節です。しかし関節の受け皿となる部分が浅く小さいため、不安定な関節でもあります。そのため、腕の骨が本来ある場所から逸脱してしまうことがあり、このことを『脱臼』と言い、一般的に『肩が抜けた』状態の事をいいます。 (図1)



(図1)



原因は・・・？

ほとんどがスポーツや転落などの外傷によるものです。生理的範囲以上の運動が強制されたり、直接的に肩関節の背面から外力が加わる事により発生します。



症状は・・・？

脱臼時には肩のまろみが無くなり、痛みのため動かすことが出来ません。しばしば脱臼した方の肘を反対の手で支えていることがあります。



治療は・・・？

まず、脱臼した関節をもとの位置に戻します。その後、肩を動かさないために固定をおこないますが、肩関節脱臼は正しく治療を行わなければ『反復性脱臼』といい、何度も脱臼を繰り返してしまう恐れがあります。そのため MRI などの検査を受け、(図2)のような固定を3～4週間行います。リハビリとしては、再脱臼を起こさない事を目的に肩関節の周りの筋肉の強化を行い、『反復性脱臼』にならないようにしていきましょう。



(図2)



それでも・・・！

ときとして不安定感が残ったり、再脱臼を起こしてしまうことがあります。はじめは保存療法を行っても手術が必要になることもあります。年齢・職業・スポーツ種目などを考慮し治療を進めていきましょう。

不明な点があればスタッフまでお気軽にご相談ください。